

3 VISION 水野よしのり 3つのビジョン

●なぜ『マニフェスト』ではないのか?

4~5年前、マニフェスト運動と出会い、それまでの議員の活動に漠然とした疑問を持っていた私は「これだ!」と思い、自らマニフェストを作成し、市民の皆様とのお約束という形でお示しました。マニフェストは、財源や具体的な工程を示すことが求められ、予算編成権を持たない「議員」という立場を踏まえたと、私なりに工夫してまとめました。しかし、その後のいろいろなマニフェスト選挙を見てきて、違和感を覚えるようになり、その思いはだんだん大きくなりました。マニフェストが「マネフェスト」と揶揄され、政策と数値の羅列に対して、後から発表した候補者が、似たような内容で数値を上を設定する、そんな選挙が繰り返されているように感じました。果たしてそれが選挙の正しい姿なのか?と疑問を持ち、これは何かが違うと思いました。

●その施策に未来はあるのか?

施策はその政治家の「魂」であり、「ビジョン」を形にする手段でもあります。数値だけにこだわり、勝ち負けを判定するものではないはず。今、1万円負担が減っても、将来2万円負担が増えては意味がありません。ただ問題を先送りにする施策も、他にすり替える施策も、未来がある施策とは言えないと思います。こういう社会にしたい、だからここは行政で支援しましょう、でもここは手伝って下さい、そう言えて初めて「協働」の社会になっていくのではないのでしょうか。耳聞こえの良い施策を並べる政治家が果たして未来のことまで真剣に考えているのか、有権者はしっかり判断することが求められています。人生においても、自分のことを真剣に思ってくれている人の方が、厳しいことも言ってくれてくれるものです。市民の皆様と一緒に、尾張旭市の未来を真剣に考えていきたいです。

- プロフィール
- ⇒東栄小・東中・旭丘高校・名古屋大学卒
 - ⇒根の鼻町在住、小学生2人の父親
 - ⇒平成11年に27歳で市議会議員初当選（現在3期）
 - ⇒2002年度 愛知県 人にやさしい街づくりアドバイザー
 - ⇒議員のあるべき姿を求めて、全国を飛び回り奮闘中

- ◀ 自己採点は中面に
- ホームページ <http://www.m-yoshinori.net/>
 - ブログ <http://blog.livedoor.jp/mizunoyoshinori/>

尾張旭の皆様には、いつも水野よしのりの議会政治活動にご理解ご支援をいただき、ありがとうございます。お陰様で、3期12年を全力で駆け抜けてまいりました。そしてこの1年は「議長」として、いろいろ新しい取り組みもできたと感じています。3期目は、市政にかけける思い、政策を『マニフェスト』という形でまとめ、それらの実現に向けて提言を続けてきました。今回は、『マニフェスト』という形ではなく、「こんなまちにしたい」という「思い」を『ビジョン』という形でまとめさせていただきます。ご一読いただき、ご助言ご指導をいただくとともに、周りの方にも広めていただければ幸いです。

水野義則



水野よしのり

VISION 1 市民のために議論する「議会」に!!

●これまでの実績●

- 平成22年度に議長として、議会内での議論を活発化
 - 「議会のあり方検討会」を立ち上げ
 - ⇒選挙公営上限額の見直し、インターネット中継の予算化、「全会一致」条項の削除 などを実現
- 議会の機能を積極的に外部にも展開
 - 非核平和都市宣言の決議を実施、二市一町議長協議会の設立を呼び掛け など



- 「議会のあり方検討会」を平成23年度以降も継続
 - インターネット中継の具体化、議案等の賛否結果の掲載 など
- 全国で進んでいる議会改革施策を尾張旭市議会に
 - 議員間自由討議の充実、議会報告会の開催、理事者への反問権の付与 など
 - ⇒議論した内容を取りまとめて、議会基本条例の制定へ

議会改革は、市民生活の向上に直接寄与するものではありません。しかし、政党や利害関係のためではなく、**市民のために議論する議会**へと変貌することで、着実に市民生活の向上に寄与できる議会となります。そして、議会改革は議員にしか取り組めない課題であります。単に、報酬や定数を減らすだけの議論では、本質は何も変わりません。

VISION 2 市役所が市民活動を積極的に支援する「まち」に!!

●これまでの実績●

- 自治会活動や市民活動に対する助成金の創設
 - 平成22年度は応募件数も増え、交流会が開催されるなど徐々に浸透
- 災害時要援護者対策のプロジェクトチームが庁内に発足
 - 部課それぞれの取り組みが、全庁的な取り組みに発展
 - 地域ごとの取り組みを、事例紹介を通して他地域に展開



- 市役所が積極的に市民活動を支援する仕組みを構築
 - 公民館等に、校区担当の職員を配置
 - ⇒自治会や子ども会など、その運営が厳しくなってきた市民活動を行政として支援
- 高齢化している担い手の後継者育成を支援
 - 棒の手、馬の塔、ざい踊り、打ちばやしなど、伝統文化の担い手の募集や保存会の運営を支援
- 地域でボランティア的な活動をしている方を支援
 - 民生委員や保護司など、地域の重要な役割をボランティア的に担っていただいている方を、行政として支援

まちづくりでは、特定の方がいくつも役割を担っている現状があります。その方たちも高齢化が進み、あらゆる分野で後継者の育成が急務であります。そのためにも、**頑張っている市民が報われる「まち」**でなければなりません。その側面支援を、市役所が行うことが必要です。任意の活動だからどちらでも、ではなく、市としてそういう活動をしていただいている方を積極的に支援していく姿勢を示すことが何よりも重要です。

VISION 3 市民と「協働」で取り組む財政再建を!!

●これまでの実績●

- 尾張旭市の財政の現状
 - 貯金は20億円、借金は280億円
 - ⇒一時期、53億円分あった塩漬けの土地は、16億円に圧縮
- サービスは増え、負担は減る
 - 子ども医療費を中学校卒業まで全額助成(約3.8億円)
 - 稲葉保育園、レイモンド保育園を増設(約8千万円)
 - ⇒社会保障費の増大により、財政状況の悪化が懸念される



- 未来を真剣に考える政治家、職員、そして市民の協力を
 - 自治会や子ども会など、地域コミュニティ活動への参加を促進
 - ⇒情報伝達手段や災害対策を考えただけでも、費用対効果は大
 - ⇒パトロールや清掃活動の活発化により、行政コストも削減
- サービス等の適正利用を促進
 - 市役所等の駐車場や、保育園等の適正利用を促進
 - 小児救急ハンドブックの活用等で、医療の適正受診を促進
 - ⇒必要な人に必要なサービスが行き渡るようにすることで、行政需要も適正化され、必要となるコストも圧縮される

- 入札制度の見直し
 - 見掛けのコストだけでなく、市場価値や将来的なコストまで含めた入札制度に

尾張旭市は、あれもこれも行政で賄えるような財政状況にはありません。今すぐ破たん状態に陥るほどではありませんが、油断はできません。行政と市民のちょっとした協力関係が、その後に必要となるコストを削減できることがあります。そうした**仕組みづくり**を議員として提案していく必要があります。